

1983年に創立50周年記念事業として10億円を拠出し、「公益信託富士フィルム・グリーンファンド」(FGF)を設立しました。民間企業による自然保護をテーマとした公益信託としては日本で最初のもので、毎年自然環境の保全・育成に関する活動や研究に対して助成を行っています。2000年度までの助成実績は合計で70件となっています。

富士フィルム・グリーンファンドの助成事業(2000年度)

豊かな里山を次世代に残すために(里山生態調査) (宮原町里山クラブどんごろす)

「里山どんごろす」は、里山づくりと、その伝統と知恵の継承を目指して設立されました。対象となる地域は、熊本県立自然公園に指定されている里地公園内で、敷地内には小谷戸や竹林、照葉樹林のほか、立神峡という渓谷も含まれています。1997年からは、環境学習の拠点施設として環境庁(当時)の地域環境行政モデル事業の指定を受け、里山管理活動や触れ合い活動を行っています。さらに活動の充実を図るために、フィールドの生態調査とともにその成果を地図にまとめるなどの活動を進めています。



スノーケリングによる海中自然観察会 (南伊豆海洋生物研究会)

南伊豆海洋生物研究会は、1989年から年2回、南伊豆中木、逢ヶ浜、鍋田浜等でスノーケリングによる海中自然観察会を開催しています。実際に藻場や海中林、アマモ場を観ることで海中植物の重要性を理解してもらうとともに、これらを保全する意識を高める活動を展開しています。近年の水質汚染や水温上昇による磯焼けによって海中林も深刻な打撃を受けており、同研究会では保全・復元活動に向けた活動も展開しています。



野尻湖における水草帯の復元と環境教育 (野尻湖水草復元研究会)

長野県北部の野尻湖では、1978年に水草が繁茂しすぎたためにソウギョを放流したところ、逆に水草・車軸藻帯が全滅し、淡水赤潮の発生も見られました。そこで車軸藻「ホシツリモ」の野尻湖内復元を目的として、長野県、信濃町などが95年に0.5㎡の復元実験区を設置しました。96年には国内の研究者とこれらの活動を合同した「車軸藻研究教育グループ」を結成し、ホシツリモ復元をシンボルにして水草帯全体の復元を目指す活動を続けています。

